



市内のイノシシにおける豚熱の感染について

呉市広町字門ノ口で発見されたイノシシの死体について、令和5年6月22日16時頃に、広島県が豚熱の感染を調査するため、その内臓の一部を持ち帰りましたが、本日、陽性である旨の連絡がありました。

豚熱については、平成30年9月9日に岐阜県の養豚場において、国内で26年ぶりとなる豚熱の発生が確認され、その後、国内複数県の養豚場等で発生が確認されています。広島県においても、令和4年3月21日に初めてイノシシでの感染が確認され、その後も広島県西部を中心に確認され、この度の呉市内での確認が25例目（呉市内では初）となります。なお、現在のところ、県内の養豚場への感染は確認されていません。

1 感染の影響

広島県によると、豚熱は豚及びイノシシの病気であり、人に感染せず、また、仮に感染した豚等の肉を食べても人体に影響はないとのこと。また、呉市内に養豚場はありませんが、愛玩豚飼養者が1戸あるとのこと。

農林水産省が豚熱の感染確認区域（豚熱の陽性確認地点から半径10km圏内の区域をいいます。）におけるジビエ利用の方針を定めており、感染確認区域で捕獲したイノシシのジビエを出荷する際には、血液PCR検査による陰性の確認などが必要となります。

この度の市内での発生に加え、過去に発生している近隣市町（東広島市、江田島市及び熊野町）の豚熱により、呉市内の多くの地域が感染確認区域になりました。

2 今後の対応

川尻の加工処理センターに対して、注意喚起及び感染確認区域内で捕獲されたイノシシ肉の出荷の停止を依頼しました。

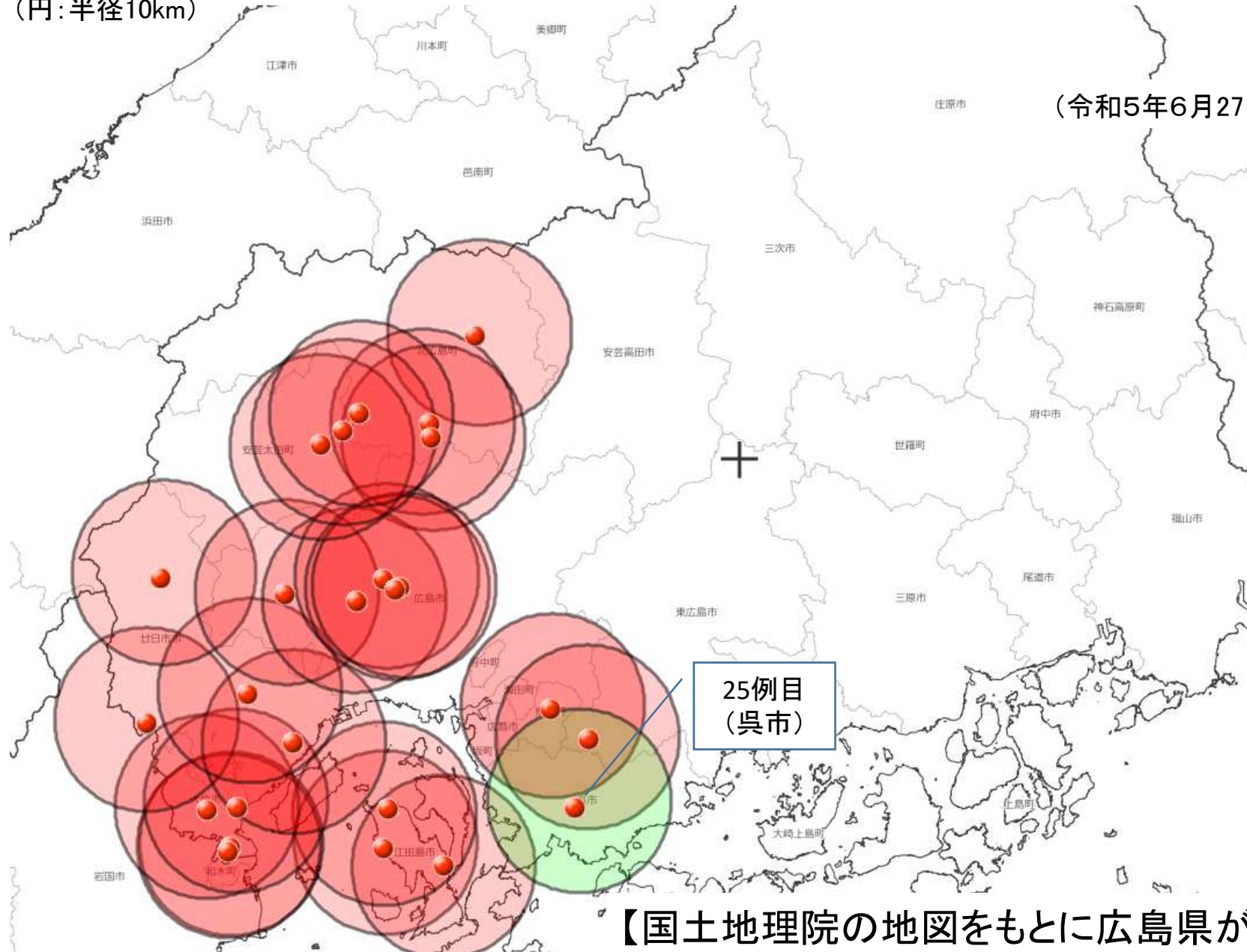
また、広島県において、県内の養豚場等に注意喚起するとともに、引き続き県内で飼養されている豚等へのワクチン接種及びイノシシの豚熱の検査を実施していくとのこと。

今後のジビエの利用等については、イノシシ肉の出荷の早期の再開を図るよう、国及び広島県等からの情報収集に努めるとともに、シカ肉の活用等について検討します。

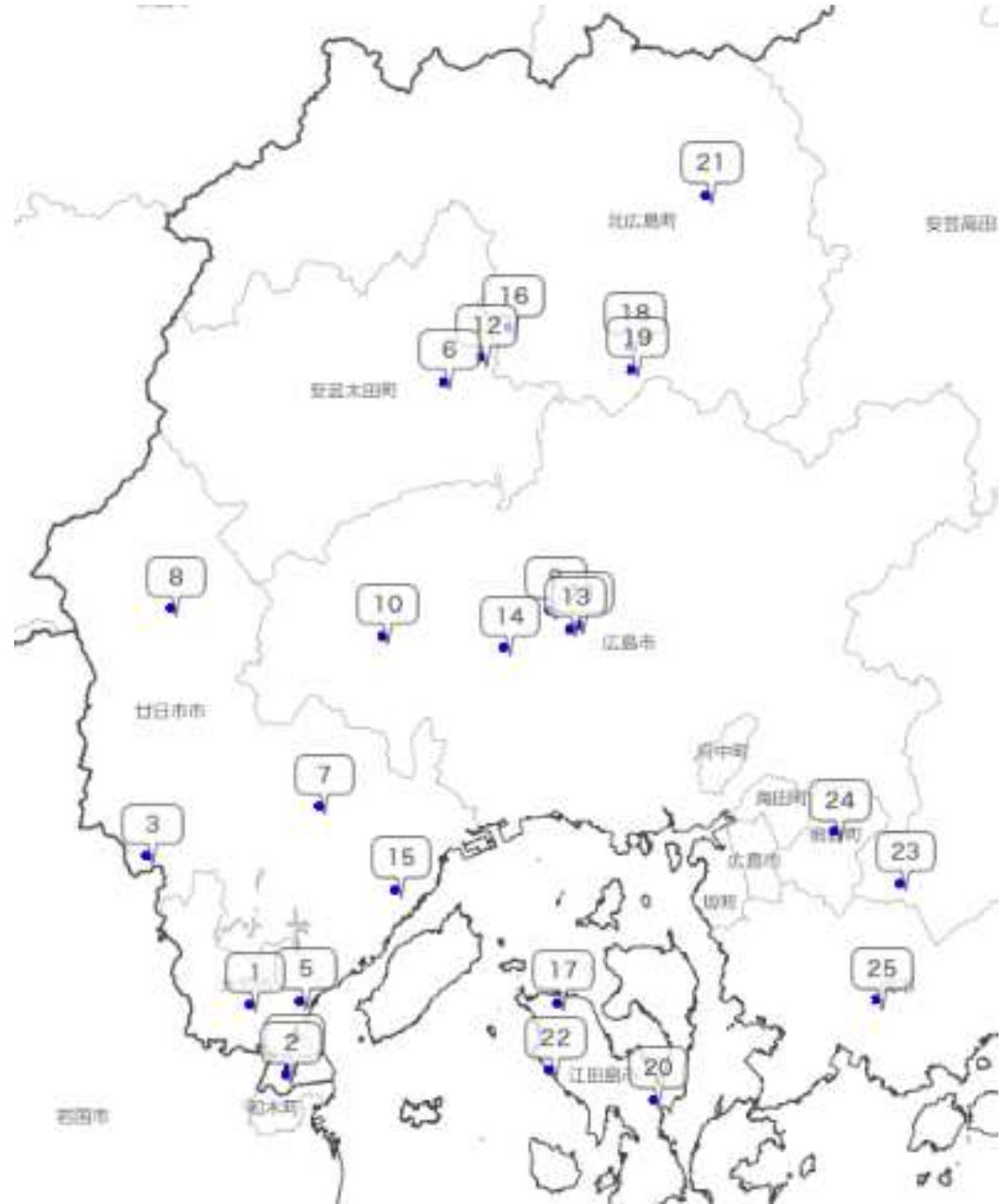
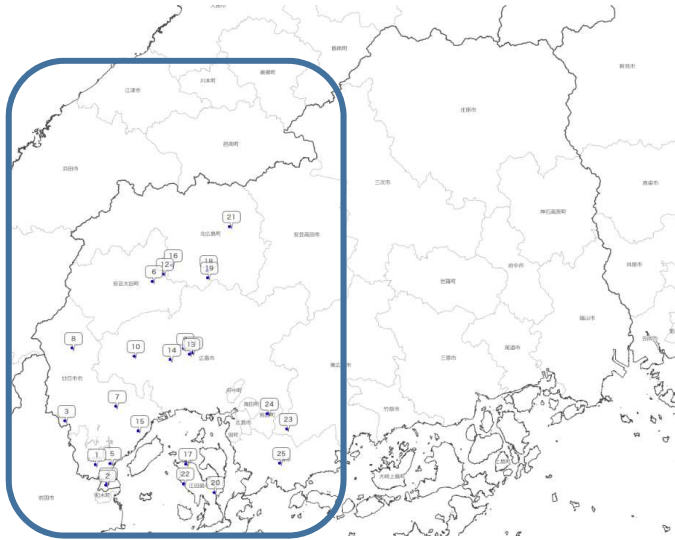
野生いのししの豚熱検査(陽性一覧)

● 陽性個体
(円:半径10km)

(令和5年6月27日現在)



【国土地理院の地図をもとに広島県が作成】



2023/6/27(採材日6/22) 呉市広町 いのしし陽性(県内25例目)
10km圏内に愛玩豚飼養1戸

